

## 第154回統計委員会（書面開催）議事結果

1 日付 令和2年8月27日（木）～9月9日（水）

### 2 審議参加者

#### 【委員】

北村 行伸（委員長）、椿 広計（委員長代理）、伊藤 敦子、岩下 真理、川崎 茂、  
神田 玲子、清原 慶子、佐藤 香、嶋崎 尚子、白塚 重典、津谷 典子、中村 洋一、  
宮川 努

#### 【臨時委員】

菅 幹雄、成田 礼子

#### 【説明者】

総務省政策統括官（統計基準担当）付統計審査官室

総務省統計委員会担当室

#### 【調査実施者】

総務省統計局統計調査部物価統計室

経済産業省大臣官房調査統計グループ サービス動態統計室

### 3 議事

（1）諮問第142号の答申「小売物価統計の指定の変更及び小売物価統計調査の変更  
について」

（2）諮問第143号の答申「商業動態統計調査の変更について」

### 4 議事の状況

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、第154回統計委員会は書面開催として  
行われた。

（1）諮問第142号の答申「小売物価統計の指定の変更及び小売物価統計調査の変更につ  
いて」

資料1-1、1-2及び1-3に基づき、書面による審議が行われ、全ての委員か  
ら賛同が得られたことから、案のとおり決定された（決定日：令和2年9月9日）。

委員から提出された意見と、それに対する対応方針等は、別紙1のとおり。

（2）諮問第143号の答申「商業動態統計調査の変更について」

資料2-1～資料2-3に基づき、書面による審議が行われ、全ての委員から賛同  
が得られたことから、案のとおり決定された（決定日：令和2年9月9日）。

また、資料2-1参考資料を踏まえて提出された資料2-1追加資料（委員長提

案) に関しても全ての委員から賛同が得られたことから、提案のとおり進めることとされた。このため内閣府及び関係省に対し適切な対応を求めた。

委員から提出された意見と、それに対する対応方針等は、別紙2のとおり。

第 154 回統計委員会 諮問第 142 号の答申「小売物価統計の指定の変更及び小売物価統計調査の変更について」に対する質問・意見及び回答

委員お名前	清原慶子
-------	------

配布資料番号	ページ	委員の御質問・御意見	府省庁の回答
資料1 -1	6	<p>答申案に賛成します。</p> <p>「3 今後の課題」として、(1) POS 情報等を活用する品目の拡大の検討、(2) 選定基準における品目の定義の検討等、(3) 構造編の在り方の検討、(4) 特売価格の実施状況の把握、の4点が指摘されており、いずれも継続的な研究が重要と考えます。</p> <p>特に、「POS 情報等を活用する品目の拡大」や「ダイナミック・プライシング(変動料金制)等、デジタル化の進展に伴い変化する価格への対応」等については、デジタル化時代にあって、迅速性、正確性の向上を図るとともに、調査負担の軽減の視点からも推進が求められています。</p> <p>ぜひとも、この課題解決に向けた対応を期待します。</p>	<p>御賛同いただきありがとうございました。</p> <p>(総務省統計局)</p> <p>「今後の課題」として御指摘いただいている事項につきましては、いずれも重要な課題と認識しており、御意見も踏まえて、不断に研究を進めてまいりたいと考えています。</p>

委員お名前	北村 行伸
-------	-------

配布資料番号	ページ	委員の御質問・御意見	府省庁の回答
資料 1- 1	6	今後の課題の4「特売価格の実施状況の把握について」は、特売価格が設定される頻度、日にちや曜日ごとの傾向などこれまでの検討状況はどうなっているのか。また、今後どの程度検討を進めるのか教えてもらいたい。また、ダイナミック・プライシングへの対応も研究することだったが、需要の動向によって価格を変えているかなど、そのような点も研究されているのか。	<p>(総務省統計局)</p> <p>POSデータを用い、特売の判定方法や、特売の頻度及びウエイトの変化などについて有識者と検討を行っています。今後、特売される商品の割合、全販売額に占める特売の比率等について学会での発表を予定しており、引き続き検討を行っていく予定です。</p> <p>また、こうした研究は、POSデータの価格と販売額を用いた研究なので、ダイナミック・プライシングにおける需要面との関係の把握まではできておりません。調査員調査では定点観測となるため、刻々と変化する価格の把握は難しいですが、今回の課題でも指摘があるとおり、POS情報などのデジタルデータを使うことによってダイナミック・プライシングも含めた平均価格を代表的な価格として捉えることが可能となることから、これらの一層の活用の拡大や、モデル式の工夫などにより、CPIに適切に反映できるよう検討していきたいと考えています。</p>

委員お名前	中村洋一
-------	------

配布資料番号	ページ	委員の御質問・御意見	府省庁の回答
		議事(1)について賛成いたします。	御賛同いただきありがとうございます。

委員名前	神田玲子
------	------

配布資料番号	ページ	委員の御質問・御意見	府省庁の回答
資料1 -1	P3	<p>答申案では、表3の①および⑤の妥当性について「…選定基準に基づいて決定しているものであり、適当である」と明記されています。</p> <p>この点に関して、第153回の統計委員会の時に、委員会では個別の品目の改廃までは議論せず、選定基準に基づいていれば、了解するという方針と理解をしました。もし、答申案に書かれているように、区別品目の廃止・追加まで検討対象であれば、どの資料をもとに「適当」と判断したのか、対外的に示す必要があると考えています。現状では、判断した根拠に関する情報が不足しているように思えます。</p>	<p>(事務局からの回答)</p> <p>御意見をいただきありがとうございます。</p> <p>個別の品目の改廃については、部会において調査実施者から個別に説明を受け、それぞれ選定基準に基づいて決定していることが確認されました。</p>

委員お名前	佐藤 香
-------	------

配布資料番号	ページ	委員の御質問・御意見	府省庁の回答
1 - 1		<p>諮問第142号の答申案について賛成いたします。</p>	<p>御賛同いただきありがとうございました。</p>

第 154 回統計委員会 諮問第 143 号の答申「商業動態統計調査の変更について」に対する質問・意見及び回答

委員お名前	宮川 努、成田 礼子、清原 慶子、佐藤 香、中村 洋一
-------	-----------------------------

配布資料番号	ページ	委員の御質問・御意見	府省庁の回答	
資料 2-1 及び参考資料、追加参考資料		<p><b>【宮川 努】</b></p> <p>(2) 理由等イに関しては、椿部会長から今回削除されることになる項目の目的があったことから、これまでのデータを利用して流通在庫の推計精度の向上が達成されるかどうかを検討する必要性があるという意見書が出ています。これに対して、追加参考資料において北村委員長が、内閣府が、経済産業省と協力の上、商業動態統計調査でこれまで収集したデータによって流通在庫の推計精度向上の検討を進めること、その結果を受けて今後の流通在庫の推計の在り方について国民経済計算体系的整備部会で審議し、結果を統計委員会で報告することについてご提案されましたが、この御提案について賛成いたします。つきましては内閣府は、この検証スケジュールについて、できるだけ速やかに国民経済計算体系的整備部会を通して統計委員会に報告することを求めます。</p>	<p><b>【内閣府】</b></p> <p>国民経済計算においては統計の質の向上にむけて絶えず見直しを図っており、在庫推計についてもこれまで改善を図ってきたところです。</p> <p>今回、御指摘の商業動態統計調査の在庫推計における利用可能性の検証のためには、「令和 3 年経済センサス-活動調査」の結果を踏まえる必要があります。このため、令和 5 年の当該調査結果の公表後に、流通品在庫における更なる推計精度向上のため、しっかりと検証を行いたいと考えております。</p> <p>検証の結果、一次統計の整備が必要との結論が得られた場合、経済産業省を始めとする関係省にも御協力をお願い申し上げます。</p>	
		<p><b>【成田 礼子】</b></p> <p>北村委員長のご提案に賛成である。</p> <p>商業動態統計調査において、家電大型専門店、ドラッグストア及びホームセンターにおける「期末商品手持額」を把握していたにもかかわらず、それを利用した推計を今まで行っていなかったため、現在の推計方法とどれくらい差異があるのかを把握すべきであると考えます。そして、延長推計を行った結果、国内の流通在庫の変動の推計精度向上に資するかどうかについて統計委員会で検討を実施したい。</p>		<p><b>【総務省】</b></p> <p>国民経済計算体系的整備部会において、内閣府から検証結果の報告を受けたうえで、流通在庫の推計方法のあり方などに関して審議することと致します。</p>
		<p><b>【清原 慶子】</b></p> <p>答申案に賛成します。</p> <p>そして、資料 2-1 参考資料「商業動態統計調査の変更に係る部会審議の際に出された意見について - 国内の流通在庫の変動の推計精度向上に向けて - 」と題するサービス</p>		

統計・企業統計部会椿広計部会長のおとりまとめは大変重要な指摘であると考えます。特に、「今後、内閣府において商業動態統計調査の家電大型専門店、ドラッグストア及びホームセンターの「期末商品手持額」を利用して延長推計を行った場合、国内の流通在庫の変動の推計精度向上に資するかどうか検証を行うとともに、その検証結果も踏まえつつ、どのように流通在庫の変動を把握することが適当かについて、総合的な検討を行い、商業動態統計調査の有用性も含め、順次、検証・検討結果について統計委員会に報告を行うことが必要です。私としては、統計委員会が、この報告を受け、国民経済計算における流通在庫の推計精度向上について、その方策を含めて具体的に審議していくことが重要であると考えます。」とのご意見を支持します。

したがって、資料2-1追加参考資料で、北村委員長が提案されました『商業動態統計調査の変更に係る部会審議の際に出された意見について - 国内の流通在庫の変動の推計精度向上に向けて - 』に係る提案』について、賛同します。

内閣府におかれては、ぜひ、建設的なご対応をお願いします。

**【佐藤 香】**

諮問第143号の答申案について賛成いたします。

北村委員長のご提案のとおり、延長推計による推計精度の向上が見込まれるのかどうかを検証・報告していただくことは重要であり、そのうえで、流通在庫の推計方法について委員会で検討する必要があると考えます。

**【中村 洋一】**

議事(2)について賛成いたします。

委員名前	神田玲子
------	------

配布資料番号	ページ	委員の御質問・御意見	府省庁の回答
資料 2-1		<p>答申案については異論ありません。商品分類の細分化は、高く評価できるものと思います。また、国内流通在庫の変動の推計制度についての意見は、とても重要なご指摘だと思います。</p> <p>他方、第 153 回の統計委員会で E-コマースに関する統計の必要性について申し上げましたように、Society5.0 をけん引する統計のあり方について議論することは重要だと考えています。E-コマースの統計把握も、諸外国で徐々に進んできていると拝察します。Society5.0 を見据えた中長期的課題について、個々の諮問・答申の過程で議論することは困難と考えられることから、統計委員会として、統計幹事の方も交えて別途、議論する機会を設けてはどうか、と考えています。</p>	<p><b>【総務省】</b></p> <p>貴重な御意見を頂き、ありがとうございました。第 153 回統計委員会においても、E-コマースに係る売上高の規模を把握することの重要性について御指摘いただいたところと承知しております。今回の御指摘も踏まえ、引き続き、対応を検討させていただきます。</p>